

明石高100周年へ 記念事業を準備

実行委中心に計画

明石高校(明石市荷山町)は、2023年に迎える創立100周年に向け、記念事業の準備に着手した。同窓会や歴代校長、同校教諭らからなる実行委員会を中心に事業計画の作成やスケジュール調整を進める。

同校は1923(大正12年)、明石市立明石中学校として創立。1928(昭和3)年、県立明石中学校と改称、学制改革で48年に県立明石高校となった。現在までに約3万3千人の卒業生を輩出している。

実行委の主な役員は次の通り。
(敬称略)

実行委員長 永井邦治(元明石高校長)
▽副委員長 西茂樹(現校長) 和田直樹(同窓会長) 佐々木みゆき(PTA会長) 川端大造(教育振興会長)

球児の思い ポスターに

中止の全国高校軟式野球



中止になった第65回全国高校軟式野球選手権大会のポスターと、原画を描いた宮本莉々果さん(左)＝明石公園

明石公園 明石高生の35点展示

明石高校美術科の生徒が、第65回全国高校軟式野球選手権大会のポスター用に描いた作品35点が、明石公園パークギャラリーで展示されている。25日から明石トーカー球場(明石公園)で開幕予定だった同大会は新型コロナウイルスの影響で中止となったが、作品展は従来通り開かれ、掲示されるはずだった「幻」のポスターも披露されている。同大会は「もうひとつの

甲子園」として毎年同球場で開催。同高美術科生は5年前から、春休みの課題としてポスター向け作品を制作している。1点を大会ポスターに選び、会場開幕に合わせて掲出してきたが、今年は大大会の中止で公表に至らなかった。作品は野球に懸ける選手

の熱意を代弁するように、力投する投手の姿やボールをバットが捉える瞬間を描いた水彩、アクリル画が並ぶ。ポスターに採用された2年生の宮本莉々果さん(17)は、背中を向けて選手がグラウンドに立つ場面を切り取った。「何かに打ち込んでいる人の背中がかっこいいので描きたかった」と作品に託した思いを語り、「他の作品には自分に出せない表現があるので吸収したい」と話した。

9月2日まで。午前9時半～午後4時半。無料。

(吉本晃司)